

大事な話や必要な話だけじゃなくて、しょーもない話もした方がいいよ。いいことも悪いことも、なんでもいいから、何回も顔突き合わせて話をするのがとにかく大切

語り手 竹原 花音（高校十六期生 総合心理学部）

聞き手 梅村愛莉

立命館守山高校生徒会での活躍

―生徒会、やっておられたんですか。

あそう、やってた。やってたけど、夏休みとかはほぼ行けてなくて。体育祭前とかやったら、競技の人数全部数えるとか。私は部活が六時までで、完全下校が七時。生徒会も七時なんやけど、その一時間だけとか、顔出ししたりしてた。六時半まで吹部は自主練ができて、帰らなあかん時間三十分前に自主練終わるっていうルールやったから、コンクール前とかは、六時半マックスまで練習して、ダッシュで下まで降りて生徒会室行って顔出してできる仕事やって、家でできるやつは家に持って帰って家で仕事して。部活がどうしてもあるから、みんなのようににはできひんかったけど、時間があれば生徒会室行って、ごめん！ギリギリやけどやることやるわって言って、やってたな。今考えたらだいぶ大変なことしてたなと思う。

高三のときは九月から十月末まで吹部を仮引退してたから、文化祭は

部活のこと考えると自分らのホール劇と、生徒会の仕事だけみたいな感じやったから、予定がまだ組みやすかった。けど高二の時は、自分が出る吹部のステージのリハと本番と、初日は二日目の練習もせなあかんし。それと、生徒会のシフトと、みたいな。だからゆっくりした記憶なくて（笑）。大学一回生なって客としてここに来た時に初めてめっちゃゆっくりパンフレットとかみながら回った（笑）。中学の時も、本番は出たから、クラスのシフトもあるし、ずっとバタバタしてた気がする。記憶あんまないなあ。

―じゃあ中学から立命館守山に？

うん六年いた。生徒会は高一から。高校は生徒会が部活やから。高一の時、吹部も続けるかどうかどうしようか迷ってた。部活どうしようかなー、でも他にやることもないし、ある程度練習日数がある部活ではありたかったから、とか考えてたんよ。そしたらその時、中学の時の友達に、生徒会どうーって言われて。兼任とかもOKやみたいな話やったし、入るかあって入って。吹部は、中学で引退して一旦離れようと思って、全く行ってなくて。けどロイロってさ、年度変わるまで昔のやつ使わなあかんやんか。それで多分ミスしやはっただけやと思うねんけど、その当時の顧問の先生から、一・二年生が練習した合奏の録音が送られてきて。それをたまたま聞いた時に、私こっち側にいるのなんでやろうな、観客みたいな気持ちになって（笑）。それやったら続けようかなって考えて、結局高校でも続けることにしたから、吹部は結局六年ずっと入ってたかな。

コロナ禍の葛藤

―中学も吹部ってやっぱり忙しいんですか？

コロナ禍なるまでとかは、ほんまに毎日のように練習してた。でも、

コロナになって一旦学校止まります、って言われて。正直うちらも、すぐ終わるやろって言うててんけど、全然終わらへんくて、酷くなつていく一方で。その年は定演（定期演奏会）も出られへんかった。結構直前まで先生らも協議してくださってたけど、やっぱり出すことはできひんって言われて、出れへんくて。当然中学三年生での海外研修も行けへんかったし。文化祭体育祭とかもだいたい限られてた。中学最後の合唱コンクールも、卒業式の合唱もなし。今じゃ信じられへんけど。もう五年前か。大変やったなー。

中三とかは内部進学のこともあるから、いろいろやらなあかんのに、準備すらも、学校が止まるから家で全部しなあかんくて。卒アル作成も学校来てもいいけどできるだけ少人数に抑えなあかんくて。とにかくバタバタしてた。高一になって、だいたいマシになったけど、それでもまだ、いつオンラインになるかわかりませんって感じやった。高二ぐらいまではみんなマスクつけてたね。大事な時以外の写真はみんなマスク付けてるのが当たり前やった。

高二の海外研修は、やつとうちの代で行けて。けどその時も、結構ギリギリまで判断は待ってくれて感じてやった。でも海外研修行ってびっくりしたのが、向こうの人たちはもうみんなマスクとか何それみたいな感じやって、ソーシャルディスタンスなんて知りませんって感じで（笑）。こんなに違うの！って感じた。

高三になってやつとマスク外して普通に喋れるようになった。文化祭も高三で前の規模に戻せて。中一・中二の時にみた光景がやつと帰ってきた！みたいな感じやった。感動したね。とにかくコロナがすごくて。二度とあんなことが起きてほしくないと思う（笑）。

運動部の子らは、練習試合くらいの規模ではあるけど、試合はできた

って言うてた子もいた。けど吹部は吹くからそういうわけにはいかへんし。コンクールがなくなつたっていう通知も、学校がないから家で一人で見た。その後みんなオンラインのミーティングしたなー。めっちゃ覚えてるそのミーティング。すごい空気やった。

コンクールは結構大きい大会やから、みんなそれに向けて頑張ってたし。その当時はあんまり強くなくて、県大会銀賞がやつとって感じやったし、みんなで絶対関西行こう！ってずつとってた矢先にコンクール中止で。もうどうしようって。モチベーションどうやって保とうとか、学校再開してから一年生どうやって呼ぼうとか。いろいろ思いがあつて、みんなで山ほど話し合った。何回か本番やらせてもらえても、全部ホルの席は一席開けで。その光景とかも鮮明に覚えてる。正直切なかった。高二的クリコン（クリスマスコンサート）の時に、やつとそれが全部良くなつて、客席がちゃんと埋まつてる！みたいな。はあ（泣）って感じやった。くるもんがあるよね。やつと普通に戻りつつあるんやって感じた。

やっぱり、全部が止まるってこんなに生活が変わるんやって痛感したね。分散登校・分散出社なんでザラやったし、こんなにまちが静かなことあるんやってくらい静かやった。一番大変やったと思う。忙しいって意味の大変ではなくて、前代未聞すぎて誰もわからんっていうのが結構なストレスというか、大変やったことかな。やつとつてとこまで行ったのにまた緊急事態宣言がとかで、それはそれは大変やった（笑）。最初はいいいねんけど、やっぱだんだん疲れてくるねん。友達にも会えへんし。私中入生やから、みんな受験してきてるわけで、簡単に地元の公園で集合とかないわけよ（笑）。ずつと電話とかズームしてた。それぐらいしか繋がれる手段ってなかったし、すごい色々フル活用してた（笑）。

―高校でりつとりナビゲーターをしていらしたんですか？

そうそう。高一の時になんかね、Classiにポコって上がってきて、面白そうと思って。その日たまたま部活がなかったのもあって、一回やってみようって。

続けるなら続けるで、後から考えたらええわぐらいの感じやってんけどめっちゃ楽しくて。メンバーに恵まれたつてのもあるけどやっぱりなかなかいやん、周りの人とふれあう機会とか。ほんとで続けてみようかなって思った。部活やりながらやったから、全部の仕事ができたわけじゃないけど、フリーっていう形でできる仕事をやらしてもらったりしてた。楽しかったよ。

私が高三の時にりつとりナビゲーターで対応した子がいるねんけど、自分が吹部出身なんやっていう話をしたその子が、吹部に入ってくれたみたいで。私は引退した後やったけど、手伝いの時とかに行ったら高校一年生になって。あの時の人ですよ！って話かけてくれて。それはめっちゃ嬉しかったな。なんやろう、中入やからこそこできることがあるなと思った。ほぼ学校生活どうですかーとかを聞かれる。あ、あとめっちゃ聞かれるのは、中入高入壁ありますかやな（笑）。いや最初はあるけどみたいな（笑）。

―最初はほんまにね（笑）。

怖いとかみんな言うよな（笑）。私の高入の友達も初めはむっちゃ怖かったって言ってたわ。でも、自分らは自分らで緊張してるわけよ。うちのイメージで高入の子は頭いいと思ってるから。初めはやっぱみんな「あ、どうも」みたいな感じにどうしてもなるけど、そんな一瞬やし。

―主にオーブンキャンパスとかで来た人らの相談みたいな感じですか？

か？

うんうん。個別相談入るとか。私は部活とかがあって時間がよめへんからできんかってんけど、キャンパスツアーのナビゲーターやってる子もいれば、私みたいに個別相談と、あと巡回して困ってそうな人いたら声かけるみたいな役の子もいた。オーブンキャンパスで場所分かんなくて迷うとか当たり前やし、あっちですよって案内したり、その場でちょっと立ち話みたいな感じで喋ったりしてた。結構いろいろ聞かれたよ。

みんなが生徒に聞きたいのって一番は学校生活のことやし、何やってはるんですかとか、授業どんな感じですかとか。パンフレットとか貰うけどそれに載ってるカリキュラムって、うちらが呼んでる授業名で載ってるから、それこそCT (critical thinking) って何ですかみたいな質問とかもあった。部活の様子とか、勉強と部活の両立はできるんですかとか。良くも悪くも生徒の生の声を正直に伝えることができるのとはとてもいい点やと思ってた。

不安なことが多いやん？ ホームページとかには載ってるけど、実際がどうかなんて聞いてみるとわからんやん。それやったらやっぱ分かってる自分らが話してあげられるのがいいよね。さっきの部活入ったんですって言うってくれた子、懂れてナビゲーター今やってるんです！ってこの前教えてくれて。そういう声聞けるのはめっちゃ嬉しいなって思ったしやっててよかったなって思った。オーブンキャンパス以外にも、ここは文化祭とか一般開放してるから、それに来てくれて、ここに来ようと思ったきっかけになったみたいなのもやっぱおるし（笑）。ステージ上とかやったらやっぱリステージ用に猫被るとかあるかもやけど、そこら辺ウロウロしてるのはみんな生身の姿やし。学校の空気とかを一番感じれてわかりやすいかなって思うね。

―私自身今大学の学部迷っているのですが、コース選択（文系理系）とか大学の学部とか、決めるのに迷ったことはなかったですか。

えっとね、悩んだよ。文系理系を選ぶより前にコースを選ぶの悩んだ。GL・AMどっちにしようかなってのは結構考えた。でもせっかくやったらGLに行ってみようかなっていうのはあったかな。だから文系理系はそんなに悩んでない。けど一番迷ったのは大学の学部を決める時。これはめっちゃ時間かかった。ちよっと、どうしようみたいな（笑）。中には、この学部行きたいから文系に行くとかをもう一年の時から決めてガッて突き進んでる子もいたけど、もうほんまにギリギリまで六個とか選択肢出してどうしようみたいになってる子もいた。だから全然いいと思う。迷える時間があるし。

私も結構ギリギリまで二個で迷ってて。両方文系の学部で、総合心理ともう一つは産業社会学部の子ども社会専攻でずっと迷ってて。両方いいなとは思ってたけど、志望理由書の書きやすい書きにくいもやっぱりあった。それやったら書きやすい方が自分的にもいいのかなとも思ったり。

今後どうしていこうかは悩んでるけど、当時は子供と関わる仕事がしたいって思ってた。やっぱり先生とかはどうしてもさ、関わりの深さに限界があるやん。悪い意味じゃなくてね。それやったら心理っていう教師じゃないけど、人と関わっていくのもありかなみたいなを思ってた心理にした。自分の性格的に、中高の教師とかもありやなって思ってたけど、一個の教科を続けるっていうのはなんとなく自分の中で続かん気がするなーとかも色々考えて。最後はやっぱり自分を信じて進路決めたって感じかなー。

吹奏楽にかけた想い

―高校生活で特に思い出に残っていることは部活ですか。

もちろん部活もあるね。六年やったっていうのもあるし。常に忙しくしてた。常にみんなでやばいやばいやばい！って言い合ってたもん（笑）。学校ある日は七時とかに学校でて、完全下校が七時やったからもうギリで学校出て。バスの時間異常に詳しくなって（笑）。次何分やで！ってみんなで言い合うみたいな。学校をとにかく出なあかんから、学校一旦出て、でも話さなあかんこと終わってなかったりしたら、別の場所でもみんなで話したりしてたよ。

―先生は毎日来てくださるんですか？

顧問の先生とか、外部指導の先生とか、誰か一人いないと部活したらあかんから、交代でやってくださってたかな。練習をするためだけに来てくださってる場合もあったから、ずっと。本当にありがたい限り。

―練習は一日練なんですか？

基本的に一日。部活のルールで六時間しかしたらあかんから、九時から四時で一時間休憩。それでピタリ六時間。一番やばいのが春休みとか、学校が新年度になるやん。ワックスがけとかで、フロア使えませんとかになって。定演前にフロア使えへんのはやばいんやけど、とか言いながら、ワックスがけが終わる時に自分たちの練習を始められるように、部活の開始時間と終了時間を合わせたしたりしてた。

教室が使えへん時とかももちろんあるから、その時はホール借りたりして。めっちゃ行ったよ市民ホール。市民ホールの舞台とか管理してくれてはる人と多分担当してた部員やたらほとんどみんな顔見知りやと思う。本番のリハとか、コンクール前はホールで通し練も多かった。どうしてもホールやと聞こえ方が音楽室と違うから調整して、また学校

に持ち帰って、練習して、本番みたいな生活をずっとしてた。海外遠征とかもあつて。そこは音楽カンファレンスみたいな場所やから、最新の楽器とか、楽譜とかの販売会もしてたよ。その会場に行かせてもらって演奏も聞かせてもらった。

コンクールは基本全て含めて十二分やから、一秒でもオーバーしたらアウトやし、十二分間に収まるかどうか通して何度も確認した。もちろん、コンクールは評価がつくから、自分たちで立てた目標に向かって曲のクオリティ高めるための練習もしたよ。定演とかクリコンみたいな自主コンサートは時間制限がないけど、ホール使える時間は限られてる。限られた時間、お客さんを飽きさせず、楽しませるために、本番のこのタイミングであのアナウンス流す、五分前になったら舞台袖に待機して、二分前になったら舞台上に上がってきて着席してみたいなことを部員が全部考えてる。照明をどのタイミングで回すとか、色をピンクから青に変えるのをどのタイミングで、とかもホールのスタッフさんと生徒が打ち合わせする。先生基本ノータッチやから。それが伝統になってる。過去の先輩方が積み上げてきてくださったものを私らがつなげてるって感じ。

だから定演は、最初から最後まで部員が考えたスケジュールと、曲と、劇の台本書くのも、生徒やし。ダンス隊、演奏隊、キャスト隊決めて、オーディションしてみたいな感じやった。演劇のレッスンの先生とかにもお世話になることもあるけど、基本的には生徒中心で。考えた案を先生に提出して、返された時もある。その時はもう一回みんなで考え直して、を繰り返してたね。宣伝用のポスターとかチラシとかも担当の部員が作ってるんよ。パンフレットの後ろとかに広告いっぱい載ってるけど、あれも全部部員が企業さんに電話かけて、ほとんど自分たちでやってた。

三年生が特にやばいけど、それは最後である三年生の責任でもあるから、大卒決めるのは全部三年生。演奏じゃないところもめっちゃ力を入れてたね。

—そんな色々な思い出がある吹奏楽部を辞めたいと思ったことはありましたか？

あるある全然ある。さっきも言ったけど、高校で続けるかどうかって時も迷ってたし。最初の方は自分らの代が先輩の代みたいに仕上がるかなっていう不安とかもあったけど、結局メンバーの支えがあったから最後までやれたんやと思ってる。うちの同期とかは、別に仲が悪かったわけじゃないけど、お互い良くも悪くも干渉しないから、全然お互いのことを知らん感じやった。自分は自分、相手は相手、って感じやったな。悪いことではないけど、部活をしていく上で、もうちょっと繋がらなアカンところとかもあったんかなとは思ってた。

高二のお盆明けの時に、ちよつと部活全体の空気がぐだった時があつて、その日はそれで練習が切り上げられたんよ。そのあと私と、あと二人くらいで先生に話を聞きに行った時に、「あなたたちの代は上下のつながりは強いけど、横のつながりが弱すぎる」って言われて、少し思ってたはいたけど、正直ピンときてなかったから詳しく聞いてみると、「休んでるやつに気を配れてるか？休んでなくても、なんかあの子元氣ないとか、疲れてそうやなとかに気付いてるか？気づく氣あるか？」って言われて、その時うわつ、できてなかったなってめっちゃ思った。良くも悪くも自分のことに必死やったっていうことももちろんやけど、氣にしないことが多かったから。

それでこれはあかんなって思ってた、新体制になった時にもちろん不満も出てたけど、意地でも週に一回同期でミーティングしようって当時の

幹部メンバーが決めてくれた。些細なことから大事なことで全部話しまくってたら、クリコン前で忙しくなってミーティングの時間が取れへんかった時があったんやけど、ミーティングができひんくても話せるわって思えるようになった。

何でも言っていいいわけではないけど、困った時とか疲れた時とかどうしようっていう時に、言っていいいんやっていう空気ができたのはめっちゃ大きかったと思う。過去一難易度の高い曲を選んだのも、クリコン自体が成功したことも自分たちの自信になったし、何よりも仲いいとはちよつとまた違う、信頼関係みたいなのをうちの代が築けたのは本当に良かったと思う。こんなこと言うとうちの代はみんな恥ずいわ！って言うんやろうけど（笑）。けどそれってほんまに大事やなって思う。

部活の子と常に一緒にいた子もいれば、そうじゃない子とかも全然いたし、でもそれがいい距離感やったんかなって感じる。確実に私は自分の同期じゃなかったら最後のコンクールも最後の定演も乗り越えられへんかったやろうなって今でも思ってる。行ける行けるが口癖やった部員が何人かいて、それが学年に伝染して。誰かが困っている時に行ける行ける、大丈夫！って入れ替わり立ち替わり言ったりして。みんなでバトンタッチしながらできてたのは良かったんかなって思う。結局その代によって色々やり方はあるから、私らのやり方が必ずしも合うってわけではないし、百パーセントじゃないと思う。でも後輩たちによく言うんは「大事な話や必要な話だけじゃなくて、しょーもない話もした方がいいよ。いいことも悪いことも、なんでもいいから、何回も顔突き合わせて話ることがとにかく大切」っていうことかな。うちらがそれで変わったなって思うからこそね（笑）。

）
・
）
・
）
・
）
・
）
・
）

― 貴重なお話を聞かせていただいて、本当にありがとうございました。こちらこそ。文字起こし頑張ってね。

― はい。ありがとうございます！

【感想】

生徒会と吹奏楽部を両立させた先輩の生活は想像を絶する多忙さでありながら、学生主体の部活動運営を通して、強い実行力と責任感を培われたことを知りました。また、仲間との信頼関係を築くことの難しさや大切さなど、全てを経験してこられた先輩の言葉は重みがありとても胸に響きました。活動への熱意や、こだわりなど、先輩の揺るぎない生き様そのものが、今後の私の人生の道標となることを確信させてくれました。



左 聞き手 梅村愛莉
右 語り手 竹原花音さん